

県民意向調査結果の概要

次期保健医療計画の策定にあたり、保健医療関係の施設やサービスについての県民の利用実態や要望を把握することを目的に、県民意向調査を実施した。

調査対象：静岡県全域
標本数：静岡県内の市町村に居住する満20歳以上の男女 1,500人
回収数：945人（回収率63.0%）
調査方法：郵送法
調査時期：平成28年12月

1 主な調査内容

(1) 自身の健康状態

- ・自分が健康であると思うか

(2) 診療時間外の発病やけがについて

- ・軽い病気にかかったと思われる場合の対応、軽い病気でも大きな病院に行く主な理由
- ・かかりつけ医の有無、かかりつけになっている主な理由

(3) 在宅医療について

- ・長期療養を望む場所
- ・自宅で長期療養することの実現可能性、課題と思うもの
- ・在宅医療の充実の必要性、整備が重要な体制

(4) 人生の最終段階における医療(終末期医療)について

- ・終末期医療における家族や親族との話し合い状況
- ・人生の最期を迎えたい場所

(5) 特定健診・特定保健指導について

- ・特定健康診査や特定保健指導の認知度
- ・特定健康診査の受診状況、特定保健指導を受けた経験

(6) 歯科・口腔ケアについて

- ・歯垢除去や定期的な歯科健診の受診状況
- ・訪問診療を行う歯科診療所の場所の認知度

(7) 薬局・薬について

- ・調剤してもらう薬局
- ・かかりつけの薬局を選んだ理由

(8) 今後の地域医療体制について

- ・それぞれの医療機関の機能に応じて役割分担して治療することについて
- ・居住地域の医療機関の整備状況
- ・今後特に整備充実を図るべき医療体制

2 調査結果の概要

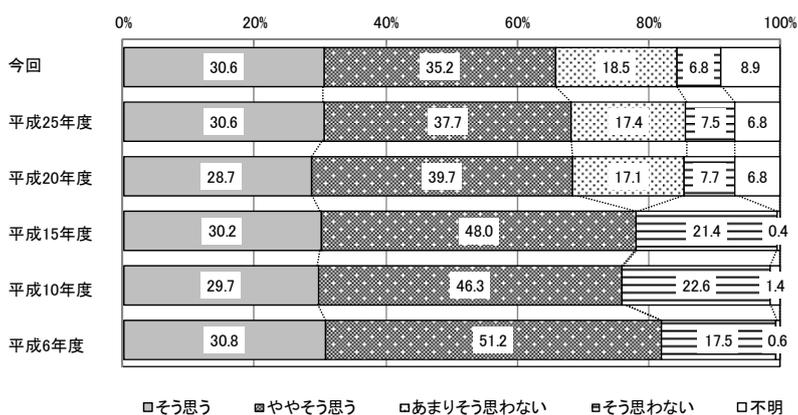
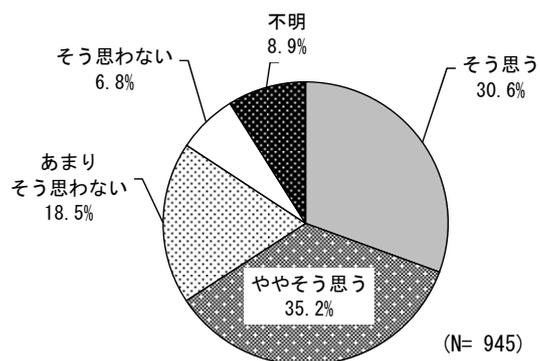
(1) 自身の健康状態

○自分が健康であると思うか

- ・「ややそう思う」35.2%
- ・「そう思う」30.6%
- ・「あまりそう思わない」18.5%

<経年変化>

- ・「そう思う」「ややそう思う」は、平成20年度を境に7割台から6割台へと減少。
- ・「そう思わない」「あまりそう思わない」は、平成10年度以降一貫して20%を超えている。



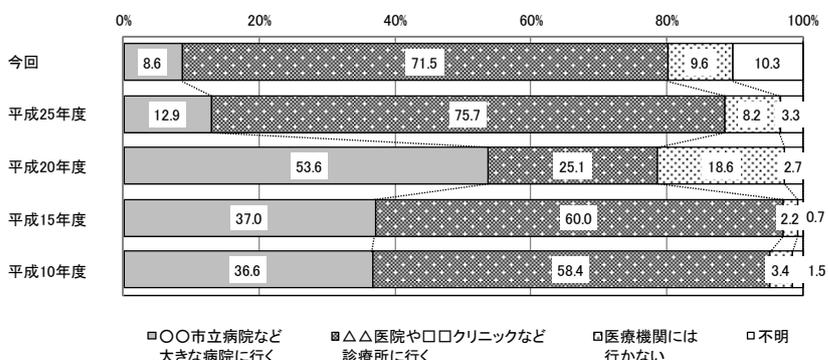
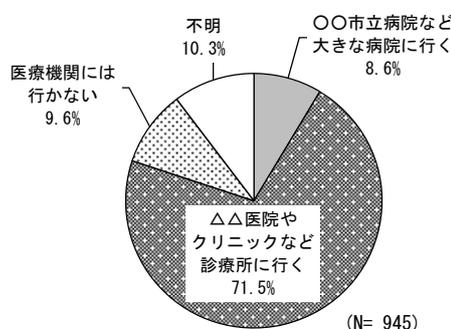
(2) 診療時間外の発病やけがについて

○軽い病気にかかったと思われる場合の対応

- ・「△△医院や□□クリニックなど診療所に行く」71.5%
- ・「医療機関には行かない」9.6%
- ・「〇〇市立病院など大きな病院に行く」8.6%

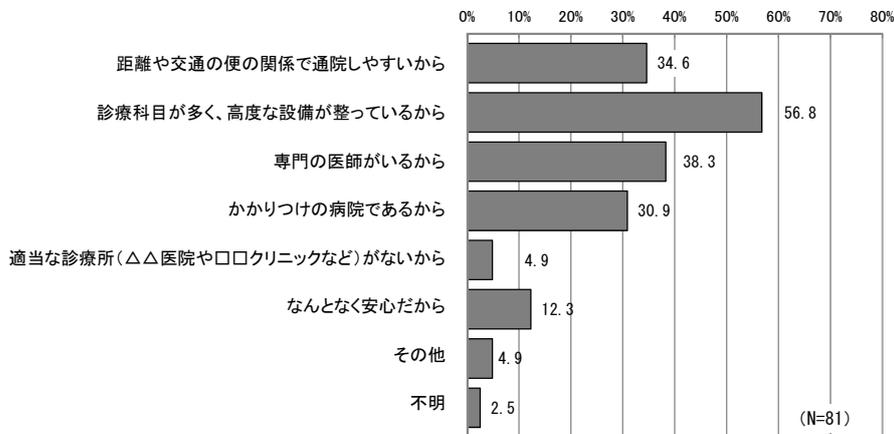
<経年変化>

- ・「〇〇市立病院など大きな病院に行く」は平成25年度から急激に減少。
- ・「△△医院や□□クリニックなど診療所に行く」は平成25年度から急増し7割台に到達。



○軽い病気でも大きな病院に行く主な理由（複数回答）

- ・「診療科目が多く、高度な設備が整っているから」56.8%
- ・「専門の医師がいるから」38.3%
- ・「距離や交通の便の関係で通院しやすいから」34.6%

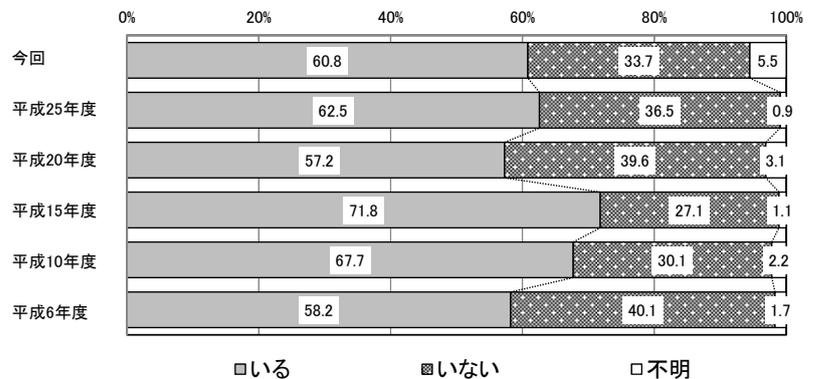
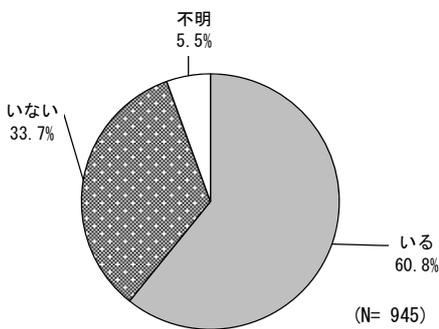


○かかりつけ医の有無

- ・「いる」60.8%、「いない」33.7%

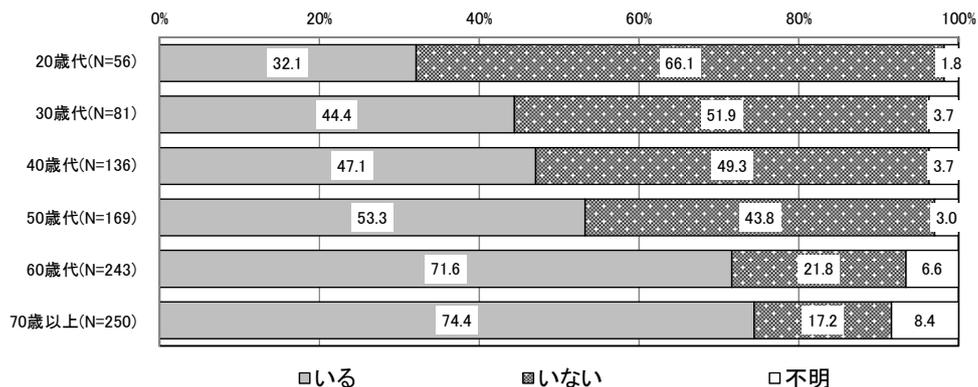
<経年変化>

- ・いずれの年度も「いる」が過半数を占めており、直近2回分調査では6割に達している。



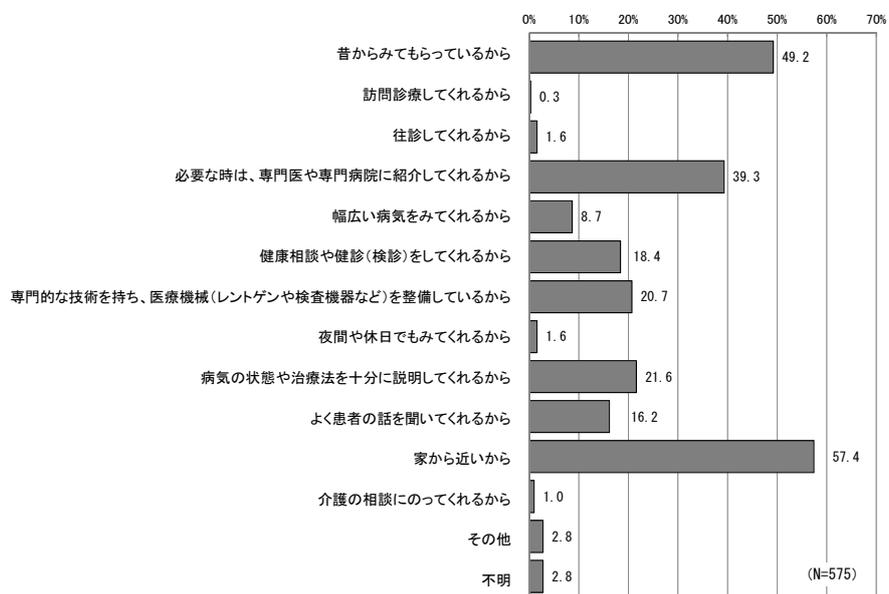
<年代別>

- ・20歳代および30歳代では、「いない」が「いる」を大きく上回り、40歳代では「いる」と「いない」がともに5割弱で、同水準となっている。
- ・「いる」は年代が上がるにつれて増加し、60歳代および70歳以上では7割を超えている。



○かかりつけになっている主な理由（複数回答）

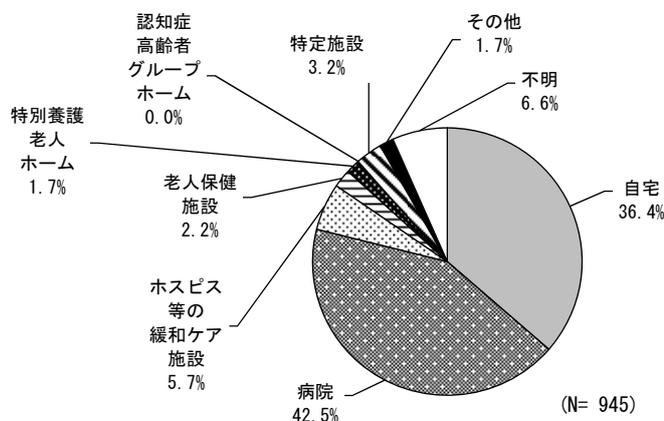
- ・「家から近いから」 57.4%
- ・「昔からみてもらっているから」 49.2%
- ・「必要な時は、専門医や専門病院に紹介してくれるから」 39.3%



(3) 在宅医療について

○長期療養を望む場所

- ・「病院」 42.5%
- ・「自宅」 36.4%
- ・「ホスピス等の緩和ケア施設」 5.7%



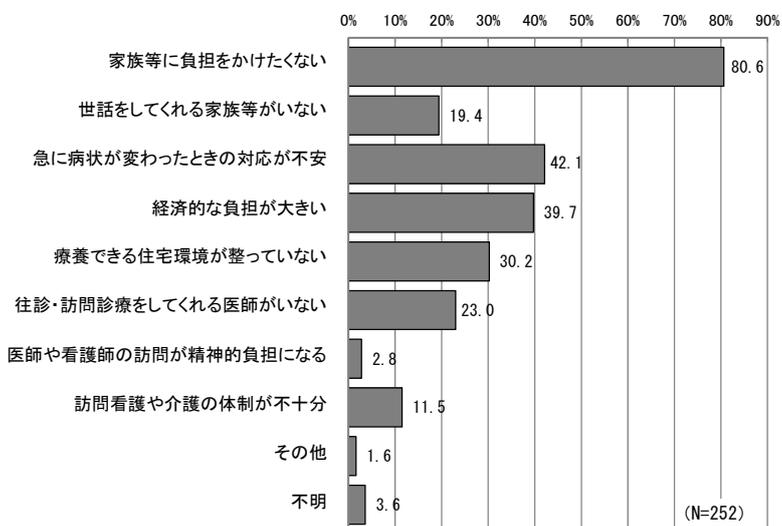
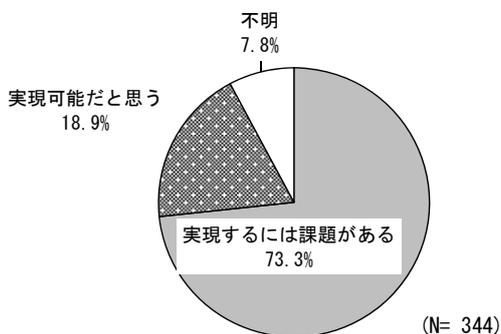
<経年変化>

	H28	H26
自宅	36.4%	29.6%
病院	42.5%	52.1%
ホスピス等の緩和ケア施設	5.7%	
老人保健施設	2.2%	
特別養護老人ホーム	12.8%	14.1%
認知症高齢者グループホーム	0.0%	
特定施設	3.2%	
その他、無回答等	8.3%	4.1%

※H26の問は「長期入院が可能な病院」、「自宅」、「介護施設等の施設」

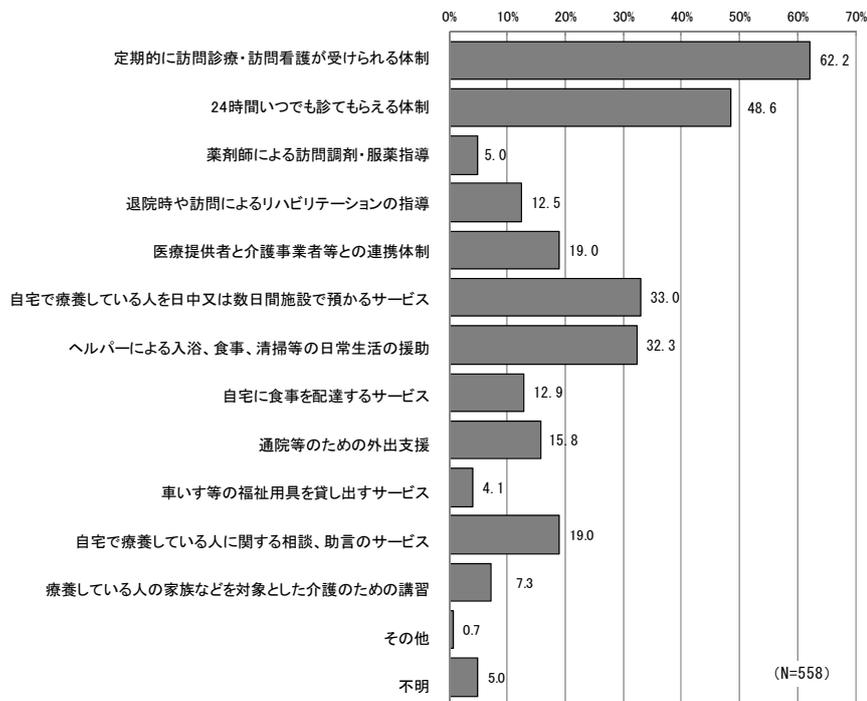
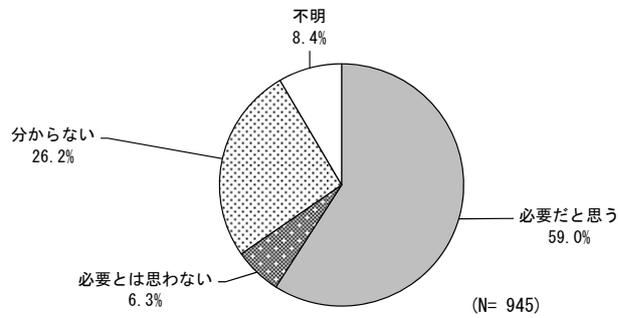
○自宅で長期療養することの実現可能性、課題と思うもの（複数回答）

- ・「実現するには課題がある」 73.3%
- ・「実現可能だと思う」 18.9%
- ・「家族等に負担をかけたくない」 80.6%
- ・「急に病状が変わったときの対応が不安」 42.1%
- ・「経済的な負担が大きい」 39.7%



○在宅医療の充実の必要性、整備が重要な体制（複数回答）

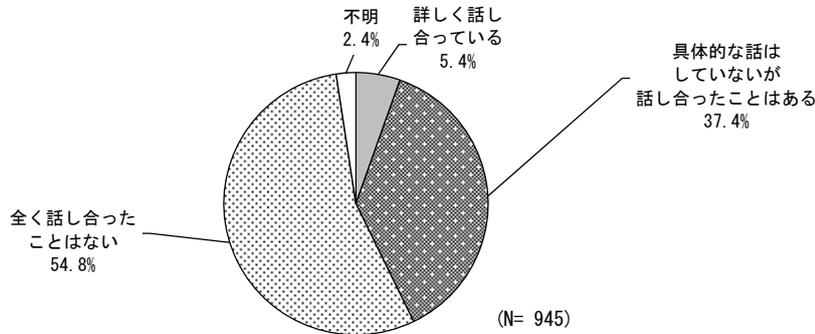
- ・「必要だと思う」 59.0% → ・「定期的に訪問診療・訪問看護が受けられる体制」 62.2%
- ・「分からない」 26.2% → ・「24時間いつでも診てもらえる体制」 48.6%
- ・「必要とは思わない」 6.3% → ・「自宅で療養している人を日中又は数日間施設で預かるサービス」 33.0%



(4) 人生の最終段階における医療（終末期医療）について

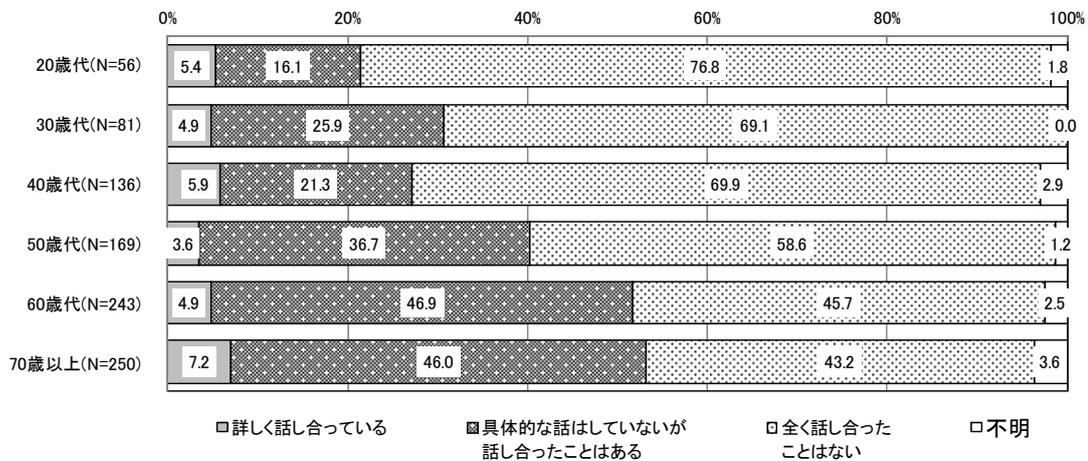
○終末期医療における家族や親族との話し合い状況

- ・「全く話し合ったことはない」 54.8%
- ・「具体的な話はしていないが話し合ったことはある」 37.4%
- ・「詳しく話し合っている」 5.4%



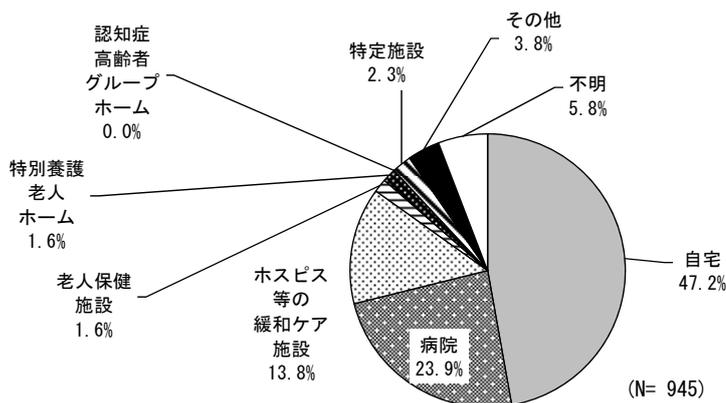
<年代別>

- ・「全く話し合ったことない」は概ね年代が若いほど高く、20歳代から50歳代までは最多項目となっている。
- ・60歳代および70歳以上では、「具体的な話はしていないが話し合ったことはある」がともに4割半ばで、それぞれ「全く話し合ったことはない」を上回った。



○人生の最期を迎えたい場所

- ・「自宅」 47.2%
- ・「病院」 23.9%
- ・「ホスピス等の緩和ケア施設」 13.8%



<経年変化>

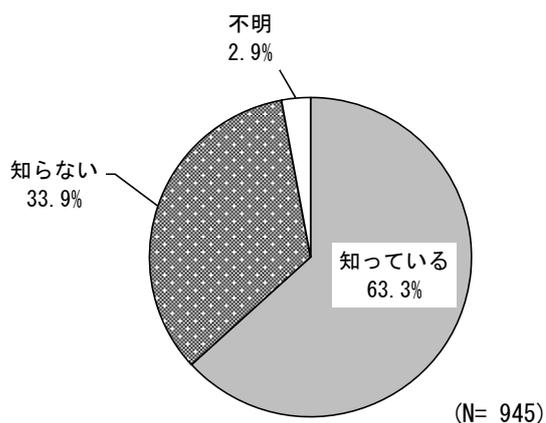
	H28	H26
自宅	47.2%	49.3%
病院	23.9%	29.9%
ホスピス等の緩和ケア施設	13.8%	
老人保健施設	1.6%	
特別養護老人ホーム	1.6%	15.2%
認知症高齢者グループホーム	0.0%	
特定施設	2.3%	
その他、無回答等	9.6%	5.6%

※H26の問は「長期入院が可能な病院」、「自宅」、「介護施設等の施設」

(5) 特定健診・特定保健指導について

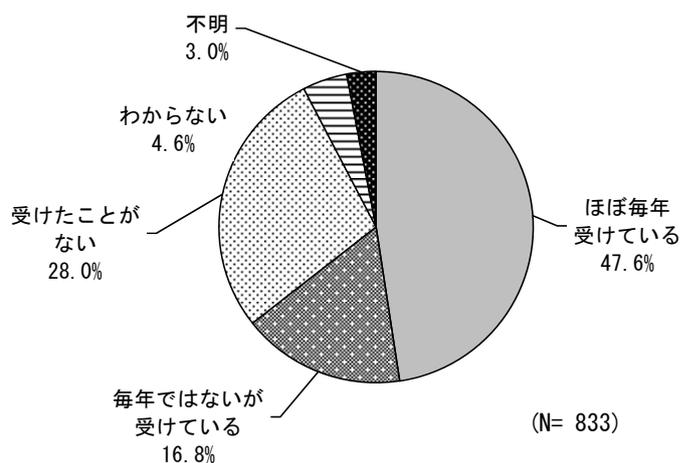
○特定健康診査や特定保健指導の認知度

- ・「知っている」 63.3%
- ・「知らない」 33.9%



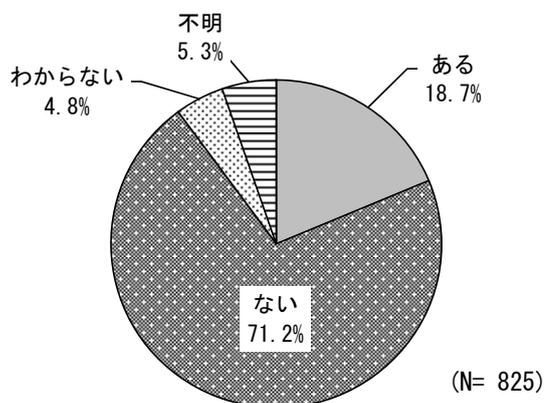
○特定健康診査の受診状況

- ・「ほぼ毎年受けている」 47.6%
- ・「受けたことがない」 28.0%
- ・「毎年ではないが受けている」 16.8%



○特定保健指導を受けた経験

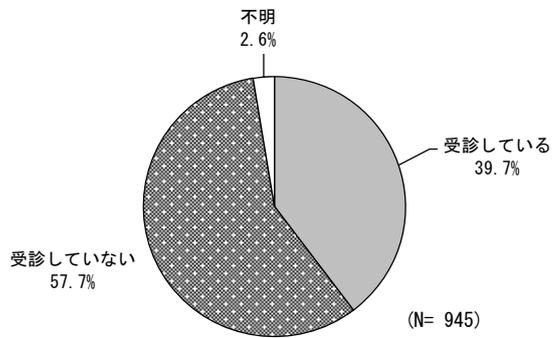
- ・「ない」 71.2%
- ・「ある」 18.7%



(6) 歯科・口腔ケアについて

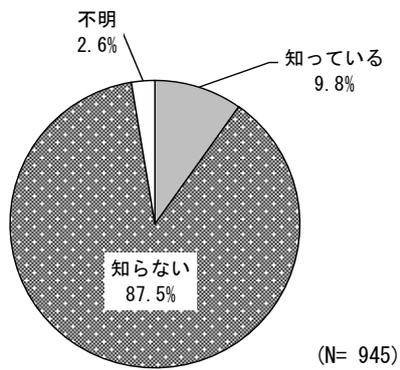
○歯垢除去や定期的な歯科健診の受診状況

- ・「受診していない」57.7%
- ・「受診している」39.7%



○訪問診療を行う歯科診療所の場所の認知度

- ・「知らない」87.5%
- ・「知っている」9.8%



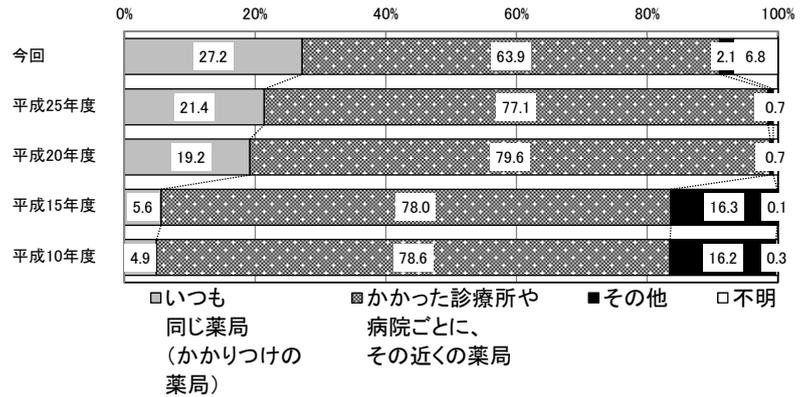
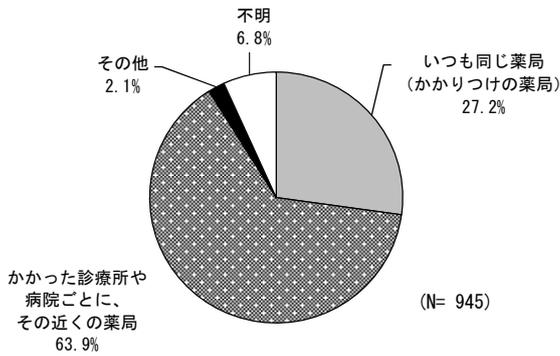
(7) 薬局・薬について

○調剤してもらう薬局

- ・「かかった診療所や病院ごとに、その近くの薬局」63.9%
- ・「いつも同じ薬局（かかりつけの薬局）」27.2%

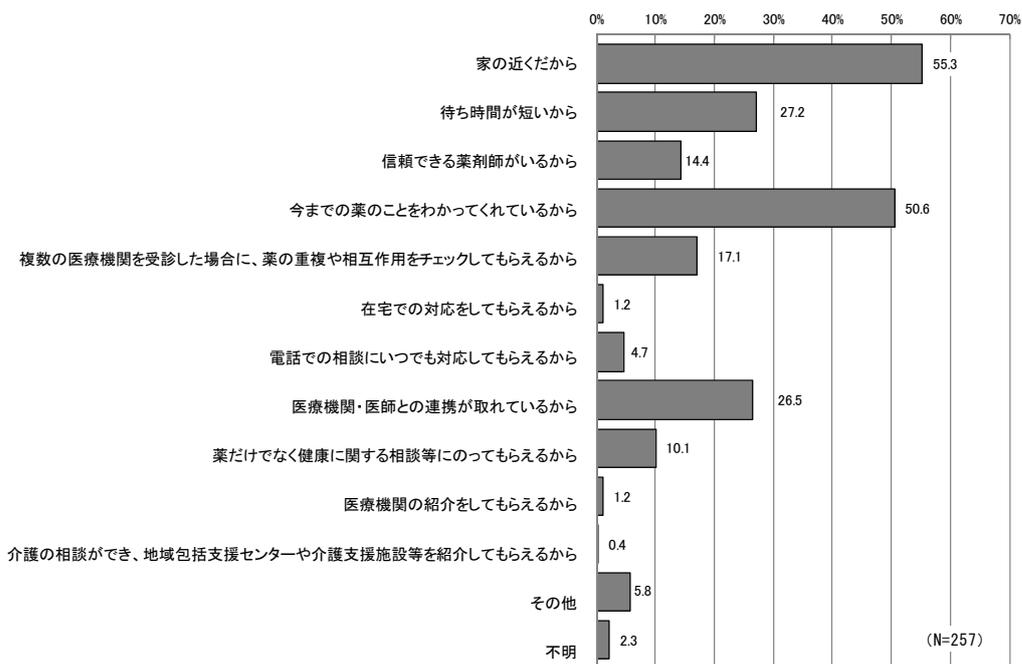
<経年変化>

- ・平成20年度を境に「いつも同じ薬局（かかりつけの薬局）」が徐々に増加。
- ・「かかった診療所や病院ごとに、その近くの薬局」は今回15ポイント近く減少。



○かかりつけの薬局を選んだ理由（複数回答）

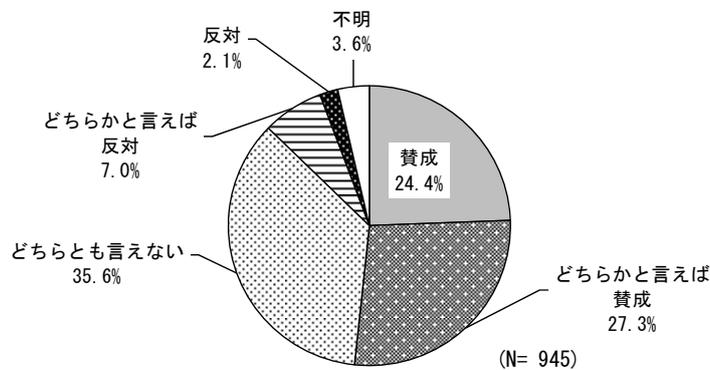
- ・「家の近くだから」55.3%
- ・「今までの薬のことをわかってくれているから」50.6%
- ・「待ち時間が短いから」27.2%
- ・「医療機関・医師との連携がとれているから」26.5%



(8) 今後の地域医療体制について

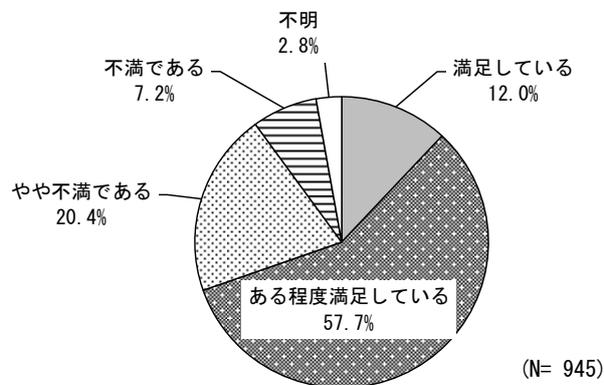
○それぞれの医療機関の機能に応じて役割分担して治療することについて

- ・「どちらとも言えない」35.6%
- ・「どちらかと言えば賛成」27.3%
- ・「賛成」24.4%



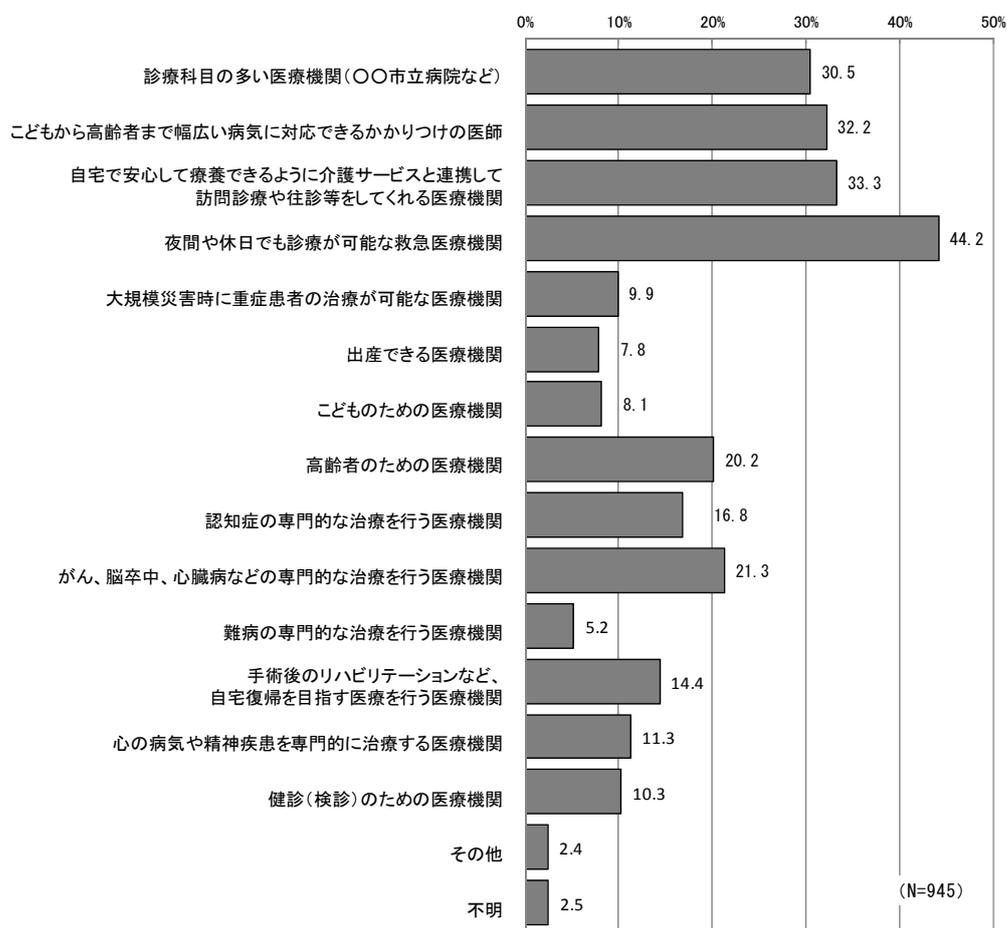
○居住地域の医療機関の整備状況

- ・「ある程度満足している」57.7%
- ・「やや不満である」20.4%
- ・「満足している」12.0%



○今後特に整備充実を図るべき医療体制（複数回答）

- ・「夜間や休日でも診療が可能な救急医療機関」 44.2%
- ・「自宅で安心して療養できるように介護サービスと連携して訪問診療」 33.3%
- ・「子どもから高齢者まで幅広い病気に対応できるかかりつけの医師」 32.2%



< 2次保健医療圏別 >

- ・賀茂では「子どもから高齢者まで幅広い病気に対応できるかかりつけの医師」が5割以上で最多となった。それ以外の圏域では「夜間や休日でも診療が可能な救急医療機関」が最多となり、特に熱海伊東では5割半ばと高めである。
- ・他の項目では、「診療科目の多い医療機関(〇〇市立病院など)」が熱海伊東で5割以上、「がん、脳卒中、心臓病などの専門的な治療を行う医療機関」が賀茂、富士で3割弱と際立っている。

